

## 令和3年度 第1回 藤沢市市民活動推進委員会 議事録

### 1 日時

2021年（令和3年）4月28日（水）午後6時～午後7時23分

### 2 場所

ウェブ開催

### 3 出席者

(1) 委員 10人

山岡委員長、坂井副委員長、林委員、阿部委員、細沼委員、西上委員、島村委員、  
間山委員、原田委員、鎌倉委員

(2) 市側 7人

藤本事務局長、平井部長、福室参事、森主幹、一瀬上級主査、緒方主査、浅野主任、

(3) 傍聴者 3人

### 4 議題

(1) 令和3年度藤沢市市民活動推進委員会年間スケジュールについて

(2) 令和3年度ミライカナエル活動サポート事業の状況について

(3) 令和3年度市民意識調査の項目について

(4) その他

### 5 配布資料

(1) 資料1 令和3年度 藤沢市市民活動推進委員会開催スケジュール

(2) 資料2-1 ミライカナエル活動サポート事業令和3年度募集案内

(3) 資料2-2 令和2年度協働コース採択事業実施状況

(4) 資料3-1 令和3年度「市民活動に関するアンケート調査」の概要

- (5) 資料3-2 市民活動に関するアンケート調査
- (6) 資料3-3 令和3年度「市民活動に関するアンケート調査」の主な変更点について
- (7) 資料4 藤沢市市民活動に関するアンケート調査報告書2018年（平成30年）1月

## 6 開催概要

### 開会

○事務局より、4月1日付の人事異動に関する説明及び挨拶が行われた。

(山岡委員長) それでは、ただいまから令和3年度第1回藤沢市市民活動推進委員会を開会いたします。

今年度最初ということで、改めまして、どうぞよろしく申し上げます。市民活動に限らず、相変わらず大変な状況がずっと続いております。皆様方におかれましても、それぞれの現場で、それぞれ大変な状況にあるのではないかと思います。そういう状況ではありますけれども、市民活動推進委員会として市民活動推進のために必要な議論はしっかりできるようにしたいと考えておりますので、引き続きどうぞご協力をお願いいたします。

それでは、初めに委員会の成立状況のほか、傍聴者の状況などについて、事務局よりお願いいたします。

○事務局より、委員会成立の報告、傍聴者数、資料確認、及び委員会の公開となる旨、報告が行われた。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

### 議題（1）令和3年度藤沢市市民活動推進委員会年間スケジュールについて

○事務局より、令和3年度藤沢市市民活動推進委員会年間スケジュールについて、説明が行われた。

(山岡委員長) それでは、今の説明について、ご質問や確認したいことなどはございますか。議題になっていますけれども、日程ですので、特段議論するようなことはなく確認ですが、もしご質問などがあればお願いします。

(坂井副委員長) 委員の中から、このミライカナエル活動サポート事業のあり方みたいなところの議論も必要だというご提案もあったかなと思います。そういったものをどうい

うタイミングでやっていくのかなというところ、それも少し意識しておいたほうがいい。この中だと、「令和4年度のみライカナエル活動サポート事業について」というのが第5回目に入っていますけれども、このときにそういう議論をするのか、あるいは少しずつ何かやっていくのか、このあたりを意識されたほうがいいのかなと思います。よろしくお願いします。

(事務局) 主な検討内容ということで、坂井副委員長がご指摘のとおり、第5回の際に、令和4年度のみライカナエル活動サポート事業について議事を設ける予定でございます。1つ昨年度から積み残しとなっている部分が、協働コースのマッチングのタイミングを委員会の採択前にするのか後にするのかというふうな部分だったと事務局としては承知しているところでございます。

令和3年度の協働コースにつきましては、団体間での調整期間を7月から8月にかけて予定しております。その調整期間を終えた後の9月であれば、今年度の調整結果を踏まえた上で、ご検討いただけたと思いますので、タイミングとしては第5回あたりかなということで、現在のところ予定させていただいております。

そのほか、第5回以外に少しご議論いただく内容があれば、各回盛りだくさんではあるんですけども、それぞれの議事の合間を見計らって議事を設定させていただきたいと考えております。

(山岡委員長) こうやって改めて眺めてみると、みライカナエル事業の審査などが半分以上で、議論する時間を入れ込む余地がないようにも思えますので、意識的に時間を確保して、必要なことはきちんと議論できるようにしていただきたいと思います。

ほか、いかがでしょうか。これはいいですね。

それでは、特によろしければ、以上で議題(1)「令和3年度藤沢市市民活動推進委員会年間スケジュールについて」を終了します。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

## (2) 令和3年度みライカナエル活動サポート事業の状況について

○事務局より、令和3年度みライカナエル活動サポート事業の状況について、説明が行われた。

(山岡委員長) みライカナエル活動サポート事業の令和3年度の募集の部分と、始まったばかりの協働コースの進捗状況の報告という2つがありました。今の説明について、どちらでもいいと思いますので、ご質問やご確認しておきたいことなどがあればお願いい

たします。

よろしいですかね。募集はまだ説明会をしているだけということなので、説明会に来ている方もおられるというぐらいのことしかわからないかと思います。

協働事業もスタートしたばかりですが、今のお話を聞いていると、着実にスタートはそれぞれできていますという認識でよいのかなと思いますけれども、いかがでしょうか。

私からいいですかね。最後のクリーンエイドフォーラムさんの、回収できるペットボトルが少なかったというのは喜ばしいことだと思うのですが、それはたまたま一回やったときに少なかったというだけの話でしょうか。流れ着いてくる量は潮の流れの影響などもありいつも同じではないでしょうけれども、そういうレベルの話なんですか。それとも、そもそも見通しが……。

(事務局) 正直、見通しが甘かったかと言われればそうかもしれないんですけども、やはり台風があった後とかでないと、なかなか大量には回収できないということでした。ただ、予想に反してかなり少なかったというのは、代表の方とお話ししていて、そういった印象を受けたというところではございます。

(山岡委員長) でも、別にこれはビーチクリーンだから、回収できるペットボトルが少なくても、これをやることによってビーチがきれいになるというのは一つあるし、少なかったら少なかったで、また流れ着いたら拾いましょうねということで、そういう理解でいいんですよね、きっと。

(事務局) 我々もできるだけ市民活動を応援していく立場なので、こういった形であれ、こういったクリーン活動が活発に行われることはいいこととして受け取っていきたいと思っております。

(山岡委員長) ほか、いかがでしょうか、コメントでも。きょうは議題的には余裕があるので、何かぜひ。

(坂井副委員長) 特にどうこうしろという注文ではないんですけども、コロナ禍であっても事業が着実にスタートしたんだなというふうを受け止めました。これからのコロナの状況もいろいろあるかもしれませんが、ぜひ着実に進めていただきたいと思いますので、この点、よろしくお伝えいただきたいと思います。

(事務局) 団体サイドもその部分についてはかなり意識をしておりますので、こういった事業をやろうと思っているということを、逐一、市民自治推進課のほうに連絡はいただいている状況ではございます。今後もこの関係性を続けていければ問題ないかと思いま

すので、坂井副委員長からいただいたご意見もちょうんと伝えてまいります。

(山岡委員長) おっしゃるとおりですね。コロナ禍で多くの活動が中止や延期になっていますから、そういう中で必要なことをきちんとやっているよということは、すごく勇気づけられるし、市民活動をされている方にとっても励まされることだと思うので、ぜひお願いしたいと思います。

(鎌倉委員) 私もビーチクリーンを何回かやったんですけど、写真を見て大勢の人が参加してくださっているので心強く思ったんです。でも、逆に、さっき話題になった、量が少ないというのはやっぱり気になっていて、ビーチに限らずいろいろごみ拾いはしているんですけども、やっている側としては少ないとインセンティブが働かないというか、ちょっと寂しいものがあるんですね。

海岸で少ないのは、気候とか環境とか状況とかいろいろあるんでしょうけれども、他にたくさんビーチクリーンをやっている団体さんがあるせいもあるのかなと思っていて、その辺との関係というんですかね、何か関連性もつくれると、ごみを集中的な処理できるというか集められるのかなとも思ったりします。やっぱり分散しちゃっているんじゃないかなというのが私の感想です。

(事務局) 確かに、そのような形であれば、もっと効率的にペットボトルを回収できるかもしれませんので、今度また来月、定例的な会議がございますので、その場で提案してみようかなと思います。

(山岡委員長) ほか、いかがですか。よろしいですかね。

そうしましたら、以上で議題(2)「令和3年度ミライカナエル活動サポート事業の状況について」を終了します。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

### (3) 令和3年度市民意識調査の項目について

○事務局より、4月1日付の人事異動に伴う新旧市民自治部長の挨拶が行われた。

○事務局より、令和3年度市民意識調査の項目について、説明が行われた。

(山岡委員長) ただいまの説明について、ご質問やご意見はございますでしょうか。

(細沼委員) 4ページと5ページに関することなんですけれども、下のほうの「『地域団体』とは」というところで、恐らく地区の防災協議会か防災協会というものが抜けているかなと思います。防災のほうは6団体の中で後からできて、防災協会か防災協議会か、ちょっと正しくはわからないんですが、うちの地区は地区防災協議会になっ

ているかなと思います。

今、大庭のほうでもアンケートをとったんですけれども、皆さん、やはり防災に関することに興味があるというか、一番重要視している部分があるので、こちらを入れたほうが携わっている方が多いんじゃないかなと思います。なので、4ページと5ページのところに追記されたほうがよろしいのではないかと思います。

(山岡委員長) 今の説明で事務局はわかりましたか。

(事務局) ありがとうございます。追記をさせていただきます。

(山岡委員長) 追記いただくということでお願いします。

(坂井副委員長) 定点観測は大変意味があることなので、ぜひ、しっかりやっていただきたいと思います。そうした中で、今回「回答しない」という選択肢を設けられて、時代の状況を踏まえての対応かと思うんですけれども、最後に資料4で、こういう形でまとめるときに「回答しない」に○をつけた人は、「無回答」と区分するのか、「回答しない」という項目出しを新たにするのか、その辺のお考えはいかがかというのが1つです。

それから、年齢について、何歳かというのを聞くようになっているんですけれども、回答の時期の幅がありますので、その期間中に年齢が変わるということもあると思うんです。だから、いつ時点の年齢を書いてくれというふうに指示しているのかどうかということ。

あと、それについて資料4を見ると、年齢が何歳代というくくりになっているんですね。例えば25歳とか68歳という1桁目のところは必要ないのであれば、正確な年齢を聞かずに、何歳代かということだけを教えてもらうというやり方もどうか。

もう一点は、やっぱり年齢に関することなんですが、15歳～80歳を対象にしたということなんですけれども、今、人生100年時代になっているので、80代、90代というのを意識しないでいいかどうかというところなんです。仮に80歳までの方を選ぶにしても、「今活動しています」ということを回答した方については、それはいつまで続けたいと思っているのかとか、そういうことを聞くことも1つはあるかもしれない。

あと、今やっている方に、それは何歳代から始めたのかということで、つい最近なのか、長くやっているのか、その活動をいつスタートしたかということも、市民活動の施策を考える上では参考になる面もあるのかなという気がしました。なので、本当は100歳まで全部聞いちゃえばいいのかなと私は思っているんですけれども、そうすると大

変なのかなとも思うので、少なくとも 80 歳以降のことを聞いてみる。そういう例を示すと高齢者の皆さんも勇気づけられることもあると思うので、その辺も意識したほうがいいんじゃないかということをおもいました。

(山岡委員長) 1つは年齢についてということ。あと、もう一つは、いつから活動を始められたかという設問ですね。年齢については、確かにそうと言えばそうですね。80 歳というのは何かあるんですか。前が 80 歳だったからということかなと思うんですけども。

(事務局) この計画につきましては、継続的に作成されているものでございますので、1つの区切りとして、これまで 80 歳までという形でアンケート調査をさせていただいてきたという経過でございます。

(山岡委員長) 特段 80 歳に根拠がなければ、別に今回とるときにそれを少し上げてもいいわけですよ。もし 80 代でどうしても知りたかったら、そこは層別の解析をすれば知ろうと思えば知ることができますよね。例えば 90 歳とか 100 歳にしたとしてもということですよ。

(事務局) 先ほど、坂井副委員長のほうから、具体的な年齢ではなく何十代という形で聞いたほうがいいのかというご意見もありましたので、それとアンケート調査を送る対象者を、例えば 80 歳以上という形にするのか 90 歳以上という形にするのか、そこは抽出の作業の関係もあるので、80 歳以上の方々に伺えるような仕組みを事務局として考えさせていただきます。

あと時点の関係ですが、確かに年齢が変わってしまうというところもありましたので、時点は追記でさせていただきたいと考えております。

「回答しない」という項目の取り扱いについては、最終的には調査報告としておまとめさせていただく際に、実際に「回答しない」と選択された方もクロス集計の1つとしてお示しするような形にはできるとお思います。ただ「回答しない」としたのがどういった方なのかという部分は、推察するぐらいのところまでしかできないと考えております。

関連しまして、本日ご欠席の木村委員から「回答しない」という部分についてご意見をお寄せいただいております。性別とか独身・既婚の部分に「回答しない」という、いわゆる意思表示の項目をつけるのであれば、例えば世帯全体の年間収入といった部分についても「回答しない」という項目を追記してはどうかというご意見をいただい

ております。

事務局として、ご意見は委員会にご報告させていただきますという話をさせていただいておりまして、ほかの項目についても、「回答しない」という項目をつけるかどうかも含め、委員の皆様からご意見を承れればと考えておりますが、いかがでしょうか。

(山岡委員長) 確認ですが、これは紙ベースで送って、手書きで書いて封筒に入れて返送するという方法ですよ。

(事務局) 基本的には現在のところ、紙ベースで送付させていただいて、返送していただく形で考えております。回答率を上げるためにはスマートフォンを活用して電子上で回答していただくという手法もあると事務局としては承知しております。ただ、今回のアンケート調査にかかる事業費の予算にどうしても限りがあるので、事業費の範囲内で含まれるのであれば、事業者と調整して実施してまいりたいと考えております。

(山岡委員長) 電子的な入力だとどうかわかりませんが、紙ベースだったら、回答したくなくればそもそも回答しない。要するに、○をつけなくて返送しちゃえば済むことなので、項目をふやすのはどうかなという気もします。

一方で、性別のところは積極的に「回答しない」という選択をとることが考えられるので選択肢を置いていると私は理解しています。既婚もそうで、いわゆるパートナーシップというものを既婚と捉えるかどうかということですよ。だから、単に答えたくないから答えないという話じゃなくて、この回答を選ぶという主張があると想定されるので選択肢を置いていると認識しています。「回答しない」は全部入れようと思えば入れられちゃう。年収に関しては「回答しない」という意思表示をつけるというのは、私はよくわからないというか、性別とはちょっと違うんじゃないかなと感じております。でも、別にその選択肢があつたらいけないかという、そうでもないような気もします。

(事務局) 木村委員のからは、世帯年収のところをご指摘いただいておりますが、その他、お住まいに関するところとか職業について「回答しない」という項目を加える必要が出てくるかと考えているところです。

(間山委員) 私の個人的な意見では、「回答しない」という項目が年収であるとする、ほとんどそこに付ける方が多くなっちゃうんじゃないかなと思う。私だったらそこに付けるかもしれません。あと、そこを入れないほうが回答率が上がるんじゃないかというのと、年齢を記入するところですが、何歳と書くと特定されそうなんじゃないか

など思う。アンケートの結果を見ると、10代、20代という感じで書いてあるので、それを○するようにして、多少でも特定しづらい雰囲気アンケートに答えていく方向に変えてみてはどうかなというのが個人的な意見です。

(山岡委員長) なるべく回答を得るというのは、アンケートではすごく大事な視点ですから、おっしゃるとおりかなと思います。年収に関してもそうですし、年齢に関してもそうですね。どう考えたって、○をつけるだけのほうが楽ですから。

(鎌倉委員) 私の意見は、「回答しない」というのも、お話を聞いていると、いろんな意味合いを質問項目に対して持ってしまうように思いますので、「回答しない」を設けるのであれば、全ての項目に「回答しない」と入れれば良いと思います。

逆に言うと、山岡先生おっしゃるとおりで、私なんかは、気に入らなきゃ一切○しないとか、選ぶんですけども、世の中には素直な人が多分多いので、ないとなると、ウーンとなるかもしれない。例えばジェンダーのところなんか一番問題なので、そこだけに「回答しない」があると逆に変な思いをされちゃうような気がしますので、入れるなら入れるで、できる限り「回答しない」を入れて、入れないなら入れないで、「記入したくないときは○しないでください」ぐらいの気持ちで書いてやれば良いんじゃないかなと思います。

年齢は、イグザクトな年齢を書く意味はよくわからないんですけども、多くのアンケート調査だと、何歳代とか、何歳～何歳というのになっているので、そんなふうに少しレンジを広げれば、先ほどの起点の話も解消できるかなと思ったりします。

(山岡委員長) 反対に「回答しない」を全部入れたほうが良いというご意見ですね。悩ましいですね。

(鎌倉委員) 入れるなら、できるだけ気取られないとか、色を持たせないように、可能であれば全部に入れちゃえばいいし、入れないならできるだけ入れないほうが良いというのが私の意見です。

(事務局) 事務局といたしましては、できる限り「回答しない」は設けたくないというのが正直なところでございます。特に年収の部分については、問5の寄付のところと密接に関係してくると考えています。年収のところ「回答しない」という方々がふえてしまうと、寄付にどういった手法でどういったものに対して行っているかが年収別のクロス集計で全く見えなくなってしまう。

そこはなかなか難しいところではあるんですけども、年収の部分は、寄付の関係の

クロス集計、あとは分析の精度を上げるためにも、「回答しない」よりも、できる限り設問はそのまま残したほうが、より精度の高い調査結果が出るのではないかと考えているところではございます。

(鎌倉委員) であれば、年収の部分だけは寄付の項目に移して、「可能であれば回答いただけますか」というので、寄付にかかわる部分だけにして、全体に聞くというのでなくしたらいかがでしょうか。

(西上委員) 基礎項目としてまとめておきたいところだから前にあるというだけですよね。アンケートは後ろのページに行くほど、だんだん面倒くさくなって回答が下がっていくので、できれば基礎項目を一番後ろに持って行って、趣旨に近い内容から始めて、後ろに全部基礎項目がまとまっていれば、寄付の項目は後ろなので、そこをちょっと入れかえるというくらいじゃないかなと思いますけれども、どうですか。

(山岡委員長) 基礎項目というのはフェイスシートというか、3ページのところですかね。

(西上委員) そうです。

(山岡委員長) 3ページを一番最後に持ってくる。

(西上委員) 何の質問をされるかわからないのに基礎情報をいきなり書くのがひっかかるんじゃないですか。

(事務局) 確かにいいアイデアだなと感じたところではございます。今、西上委員がおっしゃったとおり、問1については基礎項目ですので、いわゆる「あなたのことについて伺わせてください」という形で、その中のさまざまなクロス集計にかかわるところの基礎情報として年収もお伺いしているような形になります。

事務局としましては、もしもそういったものができるのであれば、問1については、試しに最後に持ってきてもいいかなと感じたところではございます。

(西上委員) 質問に対する答えをして、最後に自分のことを書くときに、こういうのを回答したから年収は入れたくないなと思えば、該当なしにするとか、最後に自分のことをどこまで明かすかがわかったほうが市民的には安心感があるんじゃないのかなと私は思います。前に書いちゃったら、また前に戻って、やっぱりここを書くのをやめようと消したりしないですよ。だから、自分の情報をどこまで明かすかは最後がいい。海外のアンケートは最後のほうに入るものが多いです。自分がどこまで明かすかは自分で決めたいので。日本のは先に聞きますよね。答えやすい質問からしたほうが

いいと思うからだと思いますけれども。

(事務局) ありがとうございます。問題ないようであれば、今回から問1については、一番最後のに持っていきたいと思っております。

あとは「回答しない」の項目を設けるかどうかですけれども、どうでしょうか。山岡委員長は、さっき、回答しないのであれば、〇もつけず無記入で回答する人もいるんじゃないかというお話もあったところなんですけど。

(山岡委員長) 任意なので、それでいいかなという気もするんですけどね。

(事務局) 実際にアンケート調査の集計結果の中では、項目をつけていない人も最終的には「無回答」という項目の中にまとめてクロス集計をかけていくことになるので、全く〇をつけなかった人が、いわゆる分析の結果から落ちることはまずないです。そういう意味では、〇をつける人と全く〇をつけない人は同じ項目の中にまとめられてクロス集計されていくということで、一応担保される形にはなる予定でございます。

(山岡委員長) 今ご提案いただいたように後ろに持ってくることで配慮ができるということであれば、さらにいいのではないかなと思います。要するに、アンケートを実施する側としては「回答しない」というところにはチェックしてほしくないわけですよね。そうすると、やっぱり置かないほうがいいと思います。性別のところは置かざるを得ないと考えます。そこは分けていいんじゃないですかね。

(事務局) それでは、今回は置かないような形で、ただ、性別と独身・既婚の部分については「回答しない」という項目を置くという形でやらせていただこうかなと考えております。ありがとうございました。

(原田委員) 今年度の主な変更点の中に、コロナウイルスの感染症に関する項目を追記していただいたのはすごくいいと思います。前回のアンケートと比べると大きく環境が変わった部分なので、それは必要だと思うんですが、変更している内容が、地域活動の妨げになるとか、参加の妨げになるとか、ボランティアの妨げになるということで、ネガティブな要素でしか聞いていないというところがちょっと気になりました。

例えば、コロナによって勤労状態が変化して地域や在宅になる時間がふえたかどうかというのを新たにお聞きした上で、地域活動に参加したいかどうかという質問があったと思うんですけれども、問3—3とか問4—5ですね。「市民活動に参加する理由は何ですか」と書いてあるんですけれども、その中に「地域や在宅の時間がふえたので参加したい」というような回答をふやしていただくということです。

つまり、私は活動していて感じるんですけども、例えば地域の自治会とかPTA活動とかに若い男性の方が入ってこられたケースが今年度ふえています。それもリモートになったので時間ができたから、子どものことにかかわりたいからPTAをやってみたいという人が、多くはないですけども少なからずそういう理由の方がふえているということを身をもって感じるので、そのあたりをアンケートで聞けると、市としてのアプローチの仕方とかにも参考になるんじゃないかと思うんです。

(西上委員) それ、とってもいいと思います。私もそれをすごく感じるので。

(原田委員) 例えば大きい会社じゃないんですけども、家賃を払うのがもったいないのでやめてしまってリモートにして、会社自体はレンタルであちこち場所を借りてやるというところもふえているようなので、そういうことも含めて地域の中で若い活力をいかに生かしていくかということにも参考になるかなと思うんですが、いかがでしょうか。

(事務局) 社会的にライフスタイルの変化に伴って、実際に参加する時間がふえたことを伺うのは、今のタイミングですごく効果があると思いましたが、もう一回、全体的に確認してみて、今、原田委員がおっしゃったとおり問3-3と問4-5についてはその設問を設けたいと思います。ほかの部分でも、そういったことを聞ける可能性があるところはもう一回確認してみたいと思います。

(原田委員) よろしくお願ひします。

(坂井副委員長) 今と同じ問3-3、市民活動に参加する理由のところは、とても立派な選択肢が並んでいてすごいなと思いつながりながら見ていたんですけども、実際のところ、それをやることで仲間とつながっていたいんだとか、いつまでも元気でいたいからやっているんだというのも結構あるんじゃないかと思うんです。そういう選択肢がここにあってもいいような気がしました。絶対入れなきゃいけないということじゃないんですけども、ほかのものとレベルが違うかもしれないけれども、動機としては十分あり得るだろうと思いました。

(事務局) 少しかたい表現が、確かにありますので、今、坂井副委員長がおっしゃった観点も少し意識しながら、設問項目をもう一回見直してまいりたいと思います。

(山岡委員長) 先ほどの原田委員の発言をお聞きしてちょっと思ったんですけども、新型コロナに関しては設問を1つ設けてもいいんじゃないですか。定点観測ですけども、コロナに関しては選択肢をふやす程度のことでいいのかなとふと思ったんです。

が、それはもう難しいんですかね。どんな質問をふやしたらいいかというのは今すぐ思いつかないのですが、今回に限り聞いてもいいのかなという気もします。

さっきのお話は新型コロナウイルスで、事務局からは、1つは妨げにとということもあるし、他方で地域にかかわる機会がふえたみたいなのこともあるかもしれないし、今気がついたことで具体的にこの質問とぽっと言えないんですけども、どうですか。

(事務局) 実際、今回の設問は37問で、現実的には設問数も回答率に結構関係してくると考えています。ただ、聞くとしたら今回はまさにそのタイミングでもあります。あとは調査票の全体のページ数とかもいろいろ関係してくるので、ちょっと考えさせていただきます。

(西上委員) もし1つ入れるとしたら、「コロナをきっかけに市民活動を始めようと思いましたが」みたいなもので、「思った」「思わない」を1個入れるだけで、ほかのクロス集計をかけると、20代とか30代は、これをきっかけに始めようと思った人が結構いるとか、シニアはできなくなったと思う人がたくさんいるとかわかる。シンプルな質問を1個だけ、思うか思わないかみたいなものを入れる。「コロナをきっかけに市民活動を始めようと思った」「思わない」「既にやっている」という3つぐらいを入れておけば、それでクロス集計すると、いろんなことが見えてきそうな気がします。その1問くらいだったらスペースもそんなにとらないのでいいのではないかと思います。

(事務局) 今、コロナ関連の意識調査等は内閣府さんのほうが定点的に調査されていますので、そういったところの調査結果も少し参考にさせていただきたいと思います。ただ、あとはボリューム感との相談で、シンプルな内容でもいいのでちょっと考えてみたいと思います。入れてみた内容は、次回の委員会のときにでも、皆様のほうにお示しできたらと考えております。

(山岡委員長) 今後なんですけれども、きょうの委員会でご意見を出していただいて、それでまた直して、次の委員会で確認して決定という流れなんですよね。

(事務局) 本日いただいたご意見は基本的には反映する方向性で調整をして、さらにブラッシュアップした内容を次の5月の委員会で皆様のほうにお示しします。そこで委員の皆様から、改めて細かいご意見はいただくとして、その修正については事務局のほうにお預かりさせていただき、判断はお任せいただいて、最終的には第2回のご意見をいただいたもので確定という形にして、秋口に向けて、実際、業者さんとの契約とかを事務局としては進めてまいりたいと考えております。

(山岡委員長) わかりました。といいますのは、今ちょうど議事の時間がオンタイムになってきたので、私も今見ていて、細かいところ、ここはちょっと気になるなというところがあったりするし、今まさに質問どうこうということもあって、ご意見ある方もあると思うので、後で事務局にメールで送るということもありでいいですか。

(事務局) 結構でございます。後日メールでお寄せいただけたらと思います。よろしくお祈りいたします。

(山岡委員長) それも含めて、ぜひお願いいたします。その上で次回ということで、この議題（3）については、この辺でよろしいですかね。

それでは、以上で議題（3）「令和3年度市民意識調査の項目について」を終了します。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

#### (4) その他

(山岡委員長) 最後に、議題（4）「その他」について、事務局よりお願いいたします。

(事務局) それでは、事務局より次回、第2回の開催予定についてお伝えさせていただきます。次回は5月26日（水）午後6時からになっております。現在のところ、リアル開催ですと、市役所本庁舎5階の5-1会議室を予定しておりますが、本日同様にZoomでの開催も可能性がございますので、そこにつきましては改めて別途ご案内させていただきますのでどうぞよろしくお祈りいたします。

事務局からは以上でございます。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

#### 閉会

(山岡委員長) それでは、これで本日の日程は全て終了となります。

以上をもちまして令和3年度第1回藤沢市市民活動推進委員会を閉会いたします。皆さん、どうもありがとうございました。お疲れさまでした。

午後7時23分 閉会